

龍柱建設補正予算可決の疑義

◆龍柱建設の意義

市側の主張：建設中の龍の柱は、首里城正門の龍をモチーフに琉球大学の西村教授がデザインしたもので、シンガポールのマーライオンのように那覇市のランドマークとして観光に活かしたい。この龍の柱は沖縄独特のもので中国のものでは無いとの主張。

しかし、昨年の県議会では、琉球大学で琉球歴史を専門に教鞭をとられた経験のある副知事の高良倉吉氏（琉球大学名誉教授・首里城の復元に貢献）が、首里城正門にある4本爪の龍は中国の冊封を受ける国（属国）であることを現していると答弁しています。

◆市民への説明責任と理解を得る努力

市民当局は、建設に反対の声が多くなっていることを承知しているが今後、タウンミーティングも説明会も行う予定は無いとしている。

◆建設工法の疑義

龍柱のパーツは、現在2段しか積んでいないにも関わらず阿型で雨水に染み出る箇所3ヶ所、卍型で1ヶ所、更にひび割れが4つ確認されていることを指摘されたからなのか、一つのパーツが30t前後もあるという石材を下の段に重ねて積み上げるのではなく、支柱にそれぞれボルトで固定するという驚くべき工法です。

因みに、この規模の石像は世界に存在が確認されていません。

という事は、経験のある業者は無いことになります。大丈夫・・・な訳ありません。

◆一括交付金の申請内容と実際の事業が異なっている

その1事業（石材の加工と運搬）で設計変更3回契約変更2回、その2事業（台座の基礎工事と龍柱パーツ組み立て、周辺公園整備）で設計変更2回契約変更1回しています。

始めは、龍柱高さ5m1本で予算額1億2,400万円⇒最終的に高さ15mの龍柱2本で総額2億6700万円となりました。石材の長さが6倍になっているにも関わらず、予算額は2倍ってどういう事でしょうか？5m1本の予算を承認してもらい、その財源で中国に15m2本の発注をしている事になります。これ、デタラメと言うのではないのでしょうか？

今後のスケジュール

1ヶ月間で建設業者と契約（指名競争入札にて）、建設業者は下請けの石材業者を探さねばなりません。果たしてこれを請け負う二つの業者はあるのでしょうか？

次の2ヶ月間で龍の柱の残りのパーツを組み立てると言っていますが、現在のままでは石材の内径と支柱の大きさは調整されておらず、ボルトで固定とのことですが、見たところその根拠となるような構造にはなっていません。2ヶ月では無理でしょう？

更に2ヶ月間で龍の柱の周辺の公園の整備をするというスケジュールです。

◆建設したにせよ安全に維持管理が出来るのか疑問

石材のパーツとパーツの間には特殊なゴムで雨水の侵入を防ぐとありますが、常に海風に晒され、構造上頭部の大きい龍柱は、台風等の強風で度々揺さぶられることとなるため、塩害と風害で劣化は激しいと思われます。

メンテナンスでも相当の予算が必要でしょうが、倒壊した場合、予想される被害にどのように対応するというのでしょうか？

◆結論：財務省は龍柱に給付した一括交付金を返還させ、国民の福祉に役立てるべきではないのでしょうか？